

校長室だより No.42 11月5日（木）
アメリカのイチゴは甘くない（地元企業説明会）

「アメリカのイチゴは甘くないんです」昨日、本校で開催された1・2年生対象の地元企業説明会の各会場を覗いていると、地元大手スーパーの講師のかたのこんな声が聞こえてきました。

そのまま立ち止まって聞いてみると、日本のイチゴは品種改良され甘いですが、甘いと言うことは柔らかいということで扱いや陳列にも気を遣う。アメリカではイチゴもアメリカでは堅く酸っぱいのが当たり前で、そもそも果物に「甘さ」を期待せず、甘いものが欲しければお菓子を買う、というような内容でした。また、アメリカのスーパーに視察に行くとスーパーが年配の方たちのくつろぎや交流の場にもなっており、それを参考にそういうスペースも設けるようになったという話もあったようです。廊下からの立ち聞きですので全て聞いたわけではありませんが、その道のプロとして絶えずアンテナを張り、より良い方向へと向かっていく企業の姿勢がよくわかる興味深い内容でした。

また、別の企業の会場では「ブランドと信用」という内容でポテトチップスを例に挙げて話しておられ、生徒たちが聞き入っているところでした。

今回実施した企業説明会では13の企業の方々に来校いただき、生徒が各会場をまわり講師のかたの説明を聞くという形式で30分×2回の説明会を行いました。いつも顔を合わせている教員の話ではなく、企業で働いておられるプロの話には説得力があり引きつけられます。特に今年はコロナ禍で様々なキャリア教育に関する取り組みが行えなかったこともあり、生徒にとっては地元企業のことを知り理解を深めるのと同時に、その道のプロの話を聞くという意味においてもとても貴重な時間になったはずです。

10月に入ってから、島根大学「次世代たたら協創センター」の三浦哲也氏、進路ガイダンスでの大学・専門学校・企業等の方々、文化祭ではスタジオジブリで数多くの作品の映像監督を務めておられる奥井敦氏と、本当に多くの方々に学校に来ていただき、お話を伺う機会が増えてきました。まだまだ本来の学校の姿には戻ってはいませんが、生徒たちにはこういった機会に何かをつかみ、より豊かな学校生活を過ごして欲しいと願っています。（今回も生徒の感想を読むのを楽しみにしています。）

